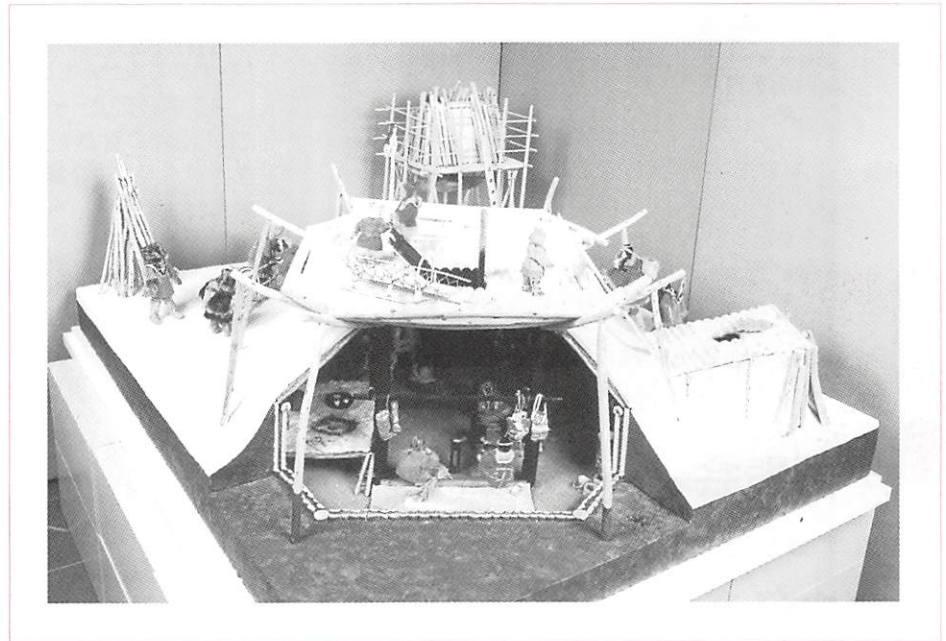




北方民族博物館だより

No.54



H13.52 コリヤークの1/10 住居模型
150cm×120cm×68cm
2002年 宮崎建築設計事務所製作

コリヤークは海岸に近いところに住んで海獣狩猟やサケ漁を行って生活してきた「海岸コリヤーク」と、移動生活をしながらトナカイを飼う「トナカイコリヤーク」とに分れていました。この住居模型は海岸コリヤークの冬の住居を再現したものです。実物の10分の1の大きさにつくられ、生活する人びとの様子や住居の中や周辺の環境も再現され、付随する貯蔵庫とともにイヌぞり櫓とカヤックもその一部として復元されています。コリヤークの冬の住居は海岸から少し内陸にはいったところに設けられ、通常は屋根の煙抜きの窓からはしごを利用して出入りします。出入り口はこのほかに二カ所ありました。数家族が共同で利用することが一般的でした。

- 1 コリヤークの住居模型
- 2 発掘調査
カナダからやってきたイヌイットの壁掛け展
- 3 収蔵資料展
平成16年度のレクチャーメニュー
- 4 INFORMATION



発掘箇所

発掘調査 2004.5.27—6.19

昨年に引き続き、今年も続縄文文化期の「美岬6遺跡1号住居址」の発掘調査と、新たにアイヌ文化期の「タンネシラリチャシ」の測量調査を行いました。発掘調査では「入口」とされる舌状の張り出し部分を探しましたが、残念ながら見つかりませんでした。もともと無かったのか、それとも崖際の地面が崩落して張り出しがなくなってしまったのか、わかりませんでした。

タンネシラリチャシは、1条の壕をもっていました。またここには3件の住居址と思われる窪みがありました。形や大きさから見て、続縄文文化期か、擦文文化期の住居址と思われます。

(学芸課 角達之助)

展覧会 2004.4.29—5.16

岩崎昌子コレクション

カナダからやってきた イヌイットの壁掛け展

財団法人北方文化振興協会の主催で、展覧会「岩崎昌子コレクション カナダからやってきたイヌイットの壁掛け展」を開催しました。

イヌイットの壁掛けは、女性たちに古くから伝えられてきた縫製の技術を用いて、主にカナダ極北地方で作られています。防寒着の材料となるダッフル地に、様々な形に切り抜いたフェルトをアップリケし、さらに刺繍が施されています。多彩な色合いと、ぬくもり感のある素材が独特の印象を与えています。1960年代後半から作られるようになり、アートとして高い評価を得るようになってきました。

題材には、イヌイットをとりまく自然環境や動物、日常生活、世界観、幾何学文様などが取り上げられます。近



年は特に、シャマニズムや神話世界を表したものが好まれています。

岩崎昌子さんは、1970年からカナダ連邦トロント市にお住まいになっています。現在百数十枚のコレクションは、カナダでも有数の規模で、壁掛けが作られるようになった初期のものから、最近のものまでと、内容が豊富なことも特徴になっています。

本展覧会では主にカナダのベーカー・レイクという人口約1400人の町で作られた壁掛け41点のほか、人形やウル（女性用ナイフ）などを多数展示しました。

岩崎さんによる解説会を4月29日と5月15日に開催したほか、小学校団体に対するレクチャーも行われました。

会期中に何度も足を運ばれる方もいて、大変好評な展覧会となりました。

なお展覧会開催にあたっては、財団法人花王芸術・科学財団の助成とカナダ大使館の後援をいただきました。

(学芸課 笹倉いる美)



壁掛けを解説する
岩崎昌子さん

ロビー展 収蔵資料展

2004.6.1—7.4

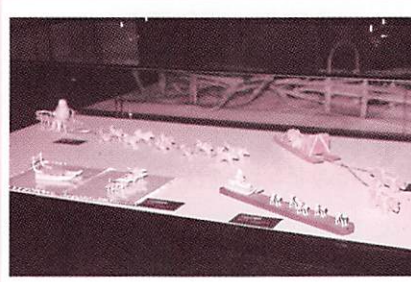
当館ではこれまで北方地域のさまざまな民族資料、考古資料を収集してきました。収集した資料は、調査研究のための資料、常設展や特別展・企画展などの展示資料として利用してきたところです。収蔵資料展はこうした資料収集事業の成果をご覧いただくために企画しました。本展示では北方の代表的な移動手段を紹介することとして、これまで収集してきた船と橇の模型資料29点を選定して展示しました。また、ロシア北東部・カムチャツカ半島北部に生活してきた海岸コリヤークの伝統的な住居の模型もあわせて展示しました。

模型は実物より小さいために本物のもつ迫力や実在感はありませんが、博物館の資料として多くの利点があります。一つには、模型は運びやすく、狭い空間でも数多く展示することができます。さらに、優れた模型資料は実物と同じ構造や造り方によって復元製作されていることから、その全体構造を間近から観察することが可能で、さまざまな角度からながめることもできます。北方諸民族が船や橇に盛り込んだ多くの発明や創意工夫された特徴を模型からも理解することができます。

以下に展示された各模型資料の概要を紹介します。

船の模型

極北地域の小型の皮舟であるカヤックは、グリーン



ランドの東海岸のタイプが6点、グリーンランド南西海岸のアマサリク地方でつくられたもの1点、アラスカ西海岸のタイプが1点、北西アラスカからカナダ極北圏のタイプが1点、合計9点を展示しました。大型の皮舟であるウミアックとしてアラスカのタイプ1点、グリーンランドタイプが2点で、グリーンランドのウミアックにはそれぞれに漕ぎ手の女性人形が4体、舵取りの男性人形が1体、櫂なども組み込まれています。

そのほか、北西海岸インディアンの丸木舟を3点、カナダ針葉樹林帯のオジブワの樹皮カヌー1点、アイヌの板綴り船1点を展示しました。

橇の模型

イヌ橇の模型9点のうち、コリヤークの1点、イヌイトの3点は橇を牽引するイヌが牽引具を付けた状態の模型です。イヌ橇本体の

みのものとして、コリヤークのもの2点、イテリメン、カムチャツカのエベンのものが各1点です。トナカイ橇はカムチャツカのコリヤークのもので2点、同じくエベンのもので1点で、コリヤークの1点は牽引するトナカイの模型も牽引具を付けた状態で製作されています。

住居模型 (表紙を参照下さい)

海岸コリヤークの住居模型は、とくに住居内の調度品やさまざまな生活の様子が精巧に復元され、観覧された方々の関心を引いていました。

(学芸課 渡部裕)

平成16年度のレクチャーメニュー

北方民族博物館では団体利用を対象に、レクチャーメニューを用意しています。平成16年度メニューは、ご要望の高かった体験学習を充実させました。学芸員による「北に住む人びとの暮らし」「アイヌの歴史と文化」「オホーツク文化の人びと」等の講話やビデオ上映、「ウイルトのやじろべえづくり」「イヌイトの知恵の輪づくり」などが平成16年度メニューです。講話、ビデオ上映は無料ですが、体験学習については材料費をいただきます。詳細についてはレクチャーメニュー一覧をご請求下さい。当館ホームページ(<http://www.ohotoku26.or.jp/hoppohm/>)でもご覧になることができます。このほか解説員による常設展示解説(10名程度)も行っています。またメニューにないことでも、こんなことはできないだろうか?とお気軽にご相談下さい。



解説員による常設展示解説の様子。個人の利用者にも行っています。ご予約下さい。

第19回特別展

北の遊牧民

—モンゴルからシベリアへ—

モンゴルの草原では、5種類の家畜—ヒツジ、ヤギ、ウシ、ウマ、ラクダ—を飼育し、乳や肉、毛皮などの畜産物によって生活してきました。大型の家畜は荷物や人の運搬にも使われます。

北方針葉樹林帯(タイガ)では、狩猟とトナカイ遊牧が並行しておこなわれ、トナカイは、人や荷物の移動・輸送手段として利用されています。また、トナカイの乳や肉は食用にされ、袋角は漢方薬の原料として売られています。シベリアのツンドラでは、大規模なトナカイ遊牧がおこなわれてきました。トナカイには橇しほをひかせ、人や荷物を運ばせました。乳搾りはあまりおこなわれず、もっぱら肉が食用として利用されてきました。

モンゴルからシベリアに至る遊牧文化をたどり、日本にはなじみの薄い遊牧社会における生活様式、人と家畜との関係を紹介いたします。

主催：北海道立北方民族博物館

協力：野外民族博物館リトルワールド、日本・モンゴル民族博物館
京都嵯峨芸術大学附属博物館、石井智美氏、大島稔氏、
呉人徳司氏、西村幹也氏、思泌夫氏、阿比留美帆氏



2004.7.17 [土] — 9.26 [日]

会期中の休館日：9月6,13,21日
観覧料

一般 450 (360) 円
高校生・大学生 150 (120) 円
小学生・中学生 70 (40) 円
※ かつこ内は10名以上の団体の場合

開館時間・休館日の変更

7月、8月は開館時間を午前9時から午後5時まで延長します。(通常は午前9時30分から午後4時30分まで) また、7月13日から9月5日までの間は無休になります。どうぞこの機会にぜひご利用下さい。

ロビー・講堂貸出

北方民族博物館では、ロビー・講堂の貸出を行っています。使用料はありません。詳細については管理課までお問い合わせ下さい。

寄贈図書 2004. 4-6

菊地慶一 2004 『街にクジラがいた 風景：オホーツクの捕鯨文化と庶民の暮らし』 寿郎社
キブリック, E.A.ほか 2004 『アリュートの言語とフォークロア』(文部科学省特定領域研究環北太平洋の「消滅に瀕した言語」にかんする緊急調査研究) 大阪学院大学情報学部

行事案内

◆日本博物館紀行
「日本・モンゴル民族博物館」
8.21 [土]
(日程変更になっています)
講師 金津匡伸氏
(日本・モンゴル民族博物館長)

◆講座「皮でつくる小さなトナカイ」
9.11 [土]
講師 笹倉いる美 (当館学芸員)



◆第19回北方民族文化シンポジウム
10.15 [金] ワークショップ
10.16 [土]、17 [日] シンポジウム

◆北海道博物館紀行
「北海道立近代美術館」
10.23 [土]
講師 浅川真紀氏
(北海道立近代美術館学芸員)

※参加を希望される方は電話でお申し込み下さい。

行事報告

◆こども映写室 2004.5.5
◆博物館クラブ
「土器をつくって焼いてみよう
その①土器の形をつくろう」
2004.5.15



北方民族博物館だより No.54

平成16(2004)年7月30日発行
編集・発行 北海道立北方民族博物館
〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1
電話0152-45-3888 fax0152-45-3889
e-mail:hoppohm@ohotuku26.or.jp
http://www.ohotuku26.or.jp/hoppohm/